

令和4年度 第1回芳賀町学校運営協議会会議録			
日 時	令和4年5月24日（火）18:00～20:00		
場 所	町民会館 多目的室		
出席者	[学校運営協議会委員] 稲川浩司、岡田由美子、吉永教雄、野澤儀之、阿久津友希、小林史貴、岩崎進、小山佳子、今井由佳、岩村智織、森島規仁、広田マリ子、斎藤裕美、手塚真、黒崎浩一、水沼一彦、関本一雄（協議会委員出席17名）		
	[芳賀中学校]（校長）山本 守 （教頭）柳 利通 （地域連携教員）鶴見優希 [芳賀東小学校]（校長）小林春彦 （教頭）半田高代 （地域連携教員）高久 誠 [芳賀北小学校]（校長）小堀 隆 （教頭）手塚幸子 （地域連携教員）富士井慶 [芳賀南小学校]（校長）生井克成 （教頭）関本恵美子（地域連携教員）那花和哲		
	（教育長）古壕秀一 [教育委員会事務局] （学校教育課長）小林芳浩（課長補佐兼学校教育係長）高橋輝秋 （学校教育課指導主事）松本 薫（学校教育課指導主事）涌井 俊裕 （生涯学習課長）高津健司（生涯学習係長）大岡久美子 （社会教育指導員）柳岡敦子（生涯学習係主事）片桐綾乃		
	司 会 高津健司 （議事進行）稲川浩司会長		
	書記	片桐綾乃	
概 要	1 開会 2 学校運営協議会委員任命書交付 3 あいさつ（古壕秀一 芳賀町教育委員会教育長） 4 議題 （1）学校運営協議会会長・副会長の選出 （2）学校経営の基本方針についての協議 ①学校経営基本方針についての説明 ②学校からの説明に関する質疑・応答 ③学校経営基本方針の承認 5 事務連絡 6 閉会		
協議事項	1 開会 2 学校運営協議会委員任命書交付 代表交付（稲川委員） 3 教育長あいさつ（古壕教育長） お忙しい中、学校運営協議会の委員をお願いしたところ快く引くお引き受けいただきありがとうございます。これからの学校と地域との関係、あるいは方向性を一言でいえば、学校は地域とともにある学校、地域は学校や子どもを一つの核とした地域づくりということになる。いわば、学校と地域の共存、共生によるより良い学校、より良い地域づくりの実演を目指すということになると思うが、芳賀町		

においてそのカギを握っているのが学校運営協議会であり皆様方である。

学校運営協議会も今年で5年目を迎える。まだまだ紆余曲折あるいは試行錯誤もあろうかと思うが皆様方の教えと力を結集すれば必ずや良い結果が生まれるものと確信している。

4 議題

(1) 学校運営協議会会長・副会長の選出

協議会規則第14条より、「会長及び副会長は委員の互選により選任する」とある。会長に前年度から引き続き稲川浩司委員、副会長に岡田由美子委員が選任された。

(稲川会長あいさつ)

昨年度から引き続きの委員の皆様、今年度新たに委員となった皆様方を迎えた20名で、本日よりスタートとなる。

新型コロナウイルス感染症の拡大の影響も受けながら、昨年度も思うような協議会の開催ができなかったり、時期をずらしたりしての開催となった。限られた時間ではあるがそれぞれの場で活躍されている皆様が集まっている学校運営協議会なので、学校と地域をつないで、未来の芳賀町、未来の子どもたちをつくる起点となるような協議会にしていければと思っている。

今年度も引き続き皆様のご理解ご協力をお願い申し上げ、あいさつとする。

(2) 学校経営の基本方針についての協議（ここからは、協議会・稲川会長が議事進行）

ア【芳賀中】山本校長から学校経営方針説明

山本校長： 学校経営ビジョンの教育目標、目指す生徒像、学校経営方針については、基本的に昨年度の学校評価を参考にして令和3年度のものを引き継いでいる。その中の、目指す生徒像、学校教育目標についてまず説明する。

「自ら学ぶ生徒」の「自分の考えを、自信をもって発表できる生徒」について、未完成であっても考えたところまで発表するなど、日常的に発表する習慣づけが必要ではないかと考えている。「自ら課題を見つけ、周囲と協力して解決できる生徒」について、昨年から芳賀町の小中学校では授業における学び合いの研究を進めているので、授業では生徒自ら授業のめあてを発見し、協力して課題を解決できる授業スタイルを確立していきたい。

2つ目の「心豊かな生徒」の中の「明るく元気に大きな声で、あいさつができる生徒」について、学校評価の中ではあいさつが良くできるという意見が多いものの、以前よりできなくなった、声が小さくなった、地域ではできない等の意見もいただいている。生徒には、あいさつは地域を明るくする力があると話しているが、元気にあいさつができない生徒がいることも事実。生徒にあいさつを強要するのではなく、あいさつがきちんとできないということは、その時点で心に何か抱えていることがあるのではないかと考えている。大人が子どもたちの状況を理解してあげることも必要と思っているので、返せない生徒がいて不愉快な思いをさせるかもしれないが、地域の皆様にも中学生を見かけたらあいさつをしてほしい。「清掃活動に一生懸命に取り組める生徒」について、時間いっぱい、無駄話をせず全力で、身支度を整える、この三つを芳賀中の清掃のルールとして、机やロッカーの整理整頓ということも指導していき

い。

3つ目の「たくましい生徒」の「早寝・早起き・朝ごはん」を着実にできる生徒」について、児童生徒が健全に成長するための基本。最低でも7時間以上の睡眠を確保させ、学習効果が上がるようにさせたい。携帯端末等の利用を控えて質の高い睡眠ができるように家庭とも連携していきたい。朝食の欠食生徒もいるので、朝食摂取率の100%を目指す。「交通ルールを守り、安全に自転車で登下校できる生徒」は、軽車両である自転車を、交通ルールを守って安全に乗るとともに、体力の向上のためにも自転車で通学することを推奨している。たくましい生徒を育成するために、学級担任については生徒の自己有用感、自分が役に立っている気持ちが成長するような学級経営を心掛けさせたい。

4つ目の「ふるさとを愛する生徒」の「ボランティア・奉仕活動、地域活動等に積極的に参加できる生徒」について、ふるさとを愛する生徒を育てるためには生徒が地域の活動に積極的に参加することや、地域の方々に学校の教育活動に関わっていただくことが大切。コロナ禍により地域との交流に躊躇してしまう場面があった。マイチャレンジの中止や活動に制限があったので、今年は感染症対策を徹底しつつ地域との交流をできる限り進めていきたい。学校支援ボランティアについても同様であり、現在消毒ボランティアについては週に2回の活動でお世話になっている。今後、さらに地域の方々には学校教育活動に協力をお願いしたいが、県の警戒レベルを参考にしながらボランティアの教育活動の参加を進めていきたい。「運動・文化芸術活動に意欲的に取り組める生徒」について、地域の方々には引き続き生徒の指導にご協力いただき、意欲的に活動する生徒を育てていきたい。今月は運動部の郡市春季大会があり、6月には県大会も控えている。大会結果はホームページに掲載している。

追加でお配りした中学3年生の指導計画（単元配列表）は、中学3年生が一年間で学習する内容。まだ完成していない部分もあるが、どの教科でどんな内容を学習しているかがわかる。矢印は総合的な学習の時間と各教科の関連を示しており、各教科で身に付けた情報（インプット）を、総合的な学習の時間で集約し発表する（アウトプット）。こういった学習の場に町民の皆様が関わっていただけると、生徒の学びもより深いものに繋がっていくと考える。計画については町内の3小学校でも同じような方向で作成されている。できればホームページ等に掲載をして町民の方に見ていただけるようにしたい。

はがまるふるさと大学の開校について、学校と役場が連携し、未来を拓く子どもを育成するプロジェクト。中学校の総合的な学習の時間の中で学習していく。詳しくはこれから学校と役場が連携して詳細を協議していく事になっている。

本校は一町一校の学校であり、町民の皆様の大きな期待と大きな支援をいただいている。本校生徒が明日の芳賀町を担える人間になれるよう、学校と地域の連携を大切にして取り組んでいきたい。

稲川会長： ボランティアや奉仕活動、地域活動などありますが、学校運営協議会も協力しながら一緒に推進していきたい。

イ【芳賀東小】小林校長から学校経営方針説明

小林校長： 昨年度始まった「カラフル活動」では地域の皆様のご協力によりたくさんの折り紙

の花が寄せられた。コロナ禍で寂しい卒業式になるところだったが、花を飾っていたいで子どもたちも教職員も心暖かい励ましに癒されるとともに感動した。この活動は現在も継続中なので、またご協力いただけたらと思う。

学校関係者評価でいただいた意見を参考に、今年度の学校経営方針を見直したので簡単に説明する。

意見の中で、地域との連携に関わるもののがかなりあったので紹介する。「地域と連携協働し、地域から愛され地域に貢献できるような学校づくりは限られた教員に頼るのではなく、学校全体の取組になることを願う」「あいさつは大人、先生から声掛けしていくことで、子どももあいさつをするようになる」「地域活動に参加すると地域でのあいさつが変わる」「子どもと地域の大人が関わる機会を増やせば、学校外でのあいさつもできるようになる」学校でもまだまだであるが、確かに地域の中でのあいさつもまだまだできていない。やっていかなければいけないこと。「小学校は地域のコミュニティの要である」「地域に頼ってください」「地域も学校と一緒に成長できるように努力したい」ありがたい意見。これを実現するために学校の経営方針の見直しをした。地域との連携は全職員が意識を高めて取り組んでいかないといけない。もっと地域を頼り、地域に出ていかないといけないという課題が良く見えた。

資料の赤字が今年度変更した部分。「芳賀町こども憲章」は、これに基づいて学校教育目標を作成し、学校評価を行っていることを明らかにするために今まで入っていなかったので明記した。次に「ふるさとをもう子」。学校教育目標に入れなくても地域との連携協働は十分に行われていたが、今回の学習指導要領の改訂で、その理念の中に教育を核とした地域づくりの視点が盛り込まれた。地域とともにある学校として、ふるさと芳賀町の地域創生に力を尽くすため、学校を核とした地域づくりと未来を作る人財育成が本校の使命の一つであるとして、地域との連携協働は単に子どもたちの教育の手段ではなくて、それ自体を目標とすべきものとして考えた。同時に、目標にすることによりあらゆる学校活動を行う際に全職員が活動の目標の中にふるさとをもう子の育成を入れ込むことになり、教職員の地域との連携協働の意識の向上が図られ、学校全体の取組になると考えた。芳賀地区で同様の目標が取り入れられているのは芳賀中学校だけ。小中学校の連携という観点から、学校教育目標に追加することの効果の高さに気付き、追加に踏み切った。それに伴い、目指す児童像に「地域と学び、地域に感謝する児童」を、その下の学校経営の方針では3に「貢献する」と追加した。本年度の努力点と具体策の努力点4「地域とともにある学校の推進」では、家庭や地域との連携推進の具体策に重点事項として「①未来を創る人財育成・ふるさと学習による地域との交流と協働」を追加。既に地域の方々との交流活動は実施しているが、さらにふるさと芳賀町についての理解を深め関心を高め問題点を知ることで地域に貢献しようとする心を育み実践に導いていきたいと考えている。次に、努力点1の中の「地域の伝統文化継承活動」。お囃子、太々神楽などの後継者不足から伝統の継承が危ぶまれている活動を子どもたちが体験することで、一人でも多くの後継者が現れることを期待。地域にいずれ子どもたちが大きくなって地域に貢献してもらえればと考えている。こうして本年度の本校では、心豊かなやさしい子、自分の頭で考える子、自ら判断して行動し自分の言葉で表現できる心身ともにたくましい子、ふるさとの未来

を創るふるさとおもう子を育成していきたいと考えている。

また、4つの教育目標を踏まえて取り組んでいるものが他にもあるので一部紹介する。現在学力向上を目指して、教員の専門性を生かした学習指導を行うため、国を挙げて高学年を中心に教科担任制が導入されつつある。芳賀町では全5・6年生の英語科の授業に英語専門の教員が入って指導している。今年度から本校では3～6年生の理科の授業にも制度を導入して、1人の教科担任がすべて授業を行っています。さらに今年度では、国語算数社会を中心に、主体的で対話的な深い学びを育む授業を進めていくということで、町全体で研究に取り組んでいる。11月8日には本校での公開研究発表会を行うので、是非その際も来ていただきたい。

新型コロナウイルス感染症はまだ終息の様子が見られていないことから、昨年度から委員の皆様に来ていただくことや、学校から出ていくことが難しい状態が続いていた。感染予防対策を施しながら、できる限りの教育活動を実施してこれらの目標が達成できるように努力していくので、委員の皆様のご協力、よろしくお願ひしたい。

岩村委員： 校長先生の地域と連携していきたいという強い思いが非常に感じられて、とても胸が熱くなった。努力点4「ふるさと学習による地域との交流と協働」で、今年度強く取り組んでいきたいということだったが、具体的にやりたいと考えていることがあれば教えてほしい。

小林校長： 明日からクラブ活動が始まるが、新たにお囃子のクラブを作った。地域の方に教えていただき覚えて、できればお祭りの時に一緒に出演して協力できればいいな、と考えている。

また、明日の校長講話で県民の日の話をする予定だが、県のことだけでなく町についても、芳賀町はこういう町だよ、ということ子どもたちに覚えてもらいたい。総合的な学習や社会科の中でも地域についての学習は取り入れているが、その他にもそういう話を入れていきたい。

ウ【芳賀北小】小堀校長から学校経営方針説明

小堀校長： 資料1枚目、学校教育目標は前年度まで行動指標にしていたものだが、児童自身に意識させるためにわかりやすい文言にした。その下に書いてある文章が昨年度までの学校教育目標だった。教職員については自信と誇りをもって子どもたちと向き合い、栃木の求める教師像を基に作成してある。学校経営の方針については、学校と家庭、地域社会、関係機関が一体となって児童の生きる力を高めていくことを目標に設定してある。

学校教育目標の達成のために重点目標として、①確かな学力、②豊かな心、③健康・安全、④地域とともにある学校の4つを柱としている。①については、近年重要となっている特別な支援を要する児童の指導の充実についての項目を新たに入れた。④の内容は昨年と同様だが、文言として「北小文化の継承」という言葉を入れた。北小だからこそ行われてきた活動があり、行われてきた活動の文化を伝えていくことが大切であることを意識して1年間を過ごしていきたい。次に2ページ目、本年度の努力点と具体策について、①は保護者アンケートでは勉強についていけない、子どもが自らの発表が苦手といった意見があった。現在町で進めている学び合い学習というものがあり、充実するよう進めていきたい。②は先生方の人権意識を高めて、児童の自己肯

定感、自己有用感を高めるような指導が必要であると思うので、重点的にやっていきたい。③は問題が起こった時の対応についての意見がアンケートであった。学校では担当者一人で考えるのではなく、多くの教職員で考えを出し合い、組織で対応することや相談機能の充実を再確認している。④はあまりあいさつができていないのではないかという意見があった。学校でも地域でも積極的なあいさつができるよう今まで以上に力を入れていきたいと考えている。

次が皆様に最もご協力いただきたい部分。2年以上にわたる新型コロナウイルス感染症まん延のため授業参観や運動会など、保護者の皆様にも場合によって制限をかけている状況。地域との交流についてはあまりできていないとは言えない。その中で本年度はできることを探して活動していきたいと考えている。地域の方、様々な方に学校に入っていてご協力いただければと思っている。現在も様々な方にご協力いただいております、特にボランティアコーディネーターの岩村さんには「スクールサポーター芳賀」という団体を設立していただき、毎週清掃に入っている。清掃そのものもありがたいが、それだけでなく気が付いたことを色々と助言していただいている。とても参考になっている。昨年度は家庭科授業での調理ボランティアやミシンボランティア、授業の見守りボランティアなどたくさんの方にお手伝いをいただいた。1、2年生の地域探検などはなんとか行っているが、児童を外に出す活動がなかなかできていない。その中でできる範囲でいろいろな活動をボランティアの方にも入っていただけて行けるのは大変ありがたいこと。学校支援ボランティアの一つの大きな目標は、児童の活動を助けていただくことだが、地域の方が学校に入ってくることによって気軽に学校に来やすくなるのが大きなメリットであると考えている。学校と地域、児童が繋がれば顔見知りになり、あいさつや会話がしやすい環境になっていくと思う。地域の人も子どもも顔と名前がわかる、そういう地域が理想であると考えている。子どもは地域の中であいさつなどを学んで育っていくもの。コロナ禍であり思うようにはいかないが、お手伝いいただければと思っている。まずはマスクをしてもできるあいさつから始めていきたいと思っているので、児童のことを見かけたら声をかけていただいて、知り合いになっていただいて、この後の子どもたちとの交流ができるようになればと思っているのでよろしくお願ひしたい。

岩崎委員： 北小文化の継承について、私も地産地消イベントなど参加した事があるが、具体的教えていただきたい。

小堀校長： 具体的にこれ、という回答ではなくて申し訳ないが、挙げていただいた地産地消イベントなどは、私が北小に来てから一度もできていない。3年間やっていないことばかりでわからなくなっていることが多い。そういうのを掘り起こして継承していければと考えている。

岩崎委員： ②のはがきた運動について教えていただきたい。

小堀校長： 「はがきた」の頭文字を取って目標が「はげましあおうみんなで、がんばろう最後まで、きたえよう心と体、たいせつにしよう人・自然・モノ」あり、児童と一緒に頑張っていこうという運動。

エ【芳賀南小】生井校長先生から学校経営方針説明

生井校長： 学校運営協議会が設置されている地域の学校が初めて。いろいろと教えていただい

てより良い協力関係を築かせていただき、子どもたちのために協働できればと思っ
ているのでどうぞよろしくお願ひしたい。

資料1枚目の「よく学ぶ子 ゆたかな子 たくましい子」、知徳体ということで3つ
の目標を掲げている。この目標を達成することが教職員の使命であると考えている。

資料2枚目、子どもたちの実態について、昨年度の学校評価の結果を芳賀町こども
憲章との関わりで整理し直したもの。「やりぬく心」学習への積極性について厳しい評
価をいただいている。分かりやすい授業については高い評価をいただいているが、ま
だまだ学びに向けての努力をしていかないといけない。家庭学習への取組について、
今年度の重点にもなってくるが自主的に家庭学習に取り組んでいるかというアンケー
トに対し、肯定的な回答は約半数と少なく、大きな課題となっている。「元気なあいさ
つ」学校ではよくなりつつあるが、地域に戻るとなかなかできなくなるということが
あり、他の学校と同じような傾向が見られている。学校の中だけでできるということ
はややもすれば、やらされているという意識があると取ることもできる。よりよい人
間関係を築くためにあいさつはお互いに交わすものだ伝えていきたい。「正しい習
慣」役割への取組について、係活動、委員会活動、学校での当番の仕事等があるが、
家庭の中で子どもたちの貢献が低いということで、学校から発信、お知らせして家
庭と協力していかなければならないと。厳しい評価の部分は学校だけで取り組んでも
改善は難しいと思うので、気になるところについても保護者に情報を発信して取り組
んでいきたい。「誇れるふるさと」地域の良さを生かした学習について、否定的な意見
があるというよりは、わからないという回答が約7%あった。コロナ禍の影響もある
と思うが、学校からの発信にまだまだ改善の余地がある。

資料1枚目に戻っていただくが、こういった実態を踏まえて、将来社会で生きてい
くために6年間でしっかりと知徳体の基礎を固めるために、目指す児童像を3点あげ
ている。「よく学び、よく遊ぶ子」授業だけでなくいろんな学習を通して学ぶ、遊びを
通して学ぶ、ということがある。「思いやりがあり、友達の気持ちが分かる子」実際の
集団生活の中でいじめなどが起きている現状があり、いじめの根絶に向けて人の痛み
がわかる子どもに育ててほしい。「夢や目標に向かって、我慢強く取り組める子」将来
に向かって未来志向で夢を語り合えるような雰囲気を作っていきたい。

学校経営の方針の(1)は知徳体の調和のとれた教育実践は生きる力に繋がるものと
されている。(2)は昨年度と変わっている部分であり、まさに学校運営協議会の目指
すものであり、地域とともにある学校づくりを展開していきたい。安心安全な学校づ
くりという点は、社会では痛ましい事件事故が発生しているので、子どもたちの命の
安全は何よりも優先して取り組んでいかなければならない。(3)教職員の資質の向上
となる。芳賀町では学力向上の研究校として4校とも指定されているため、その機会
を通して研究を深めていきたい。(4)地域とともにある学校づくりのためにもなくて
はならないこと。(5)計画、実践、評価、改善のPDCAサイクルを回していきたい。

本年度の努力点と具体策。太文字部分が今年度の重点になるので説明する。「確か
な学力の育成」将来との関わりというのは、自分が将来社会の一員としてどのように
貢献することができるかということで、キャリアを意識した授業展開を進めていき
たい。また、自学学習の推奨という部分は、宿題の他に自主的に進める学習を4年生

以上で展開していく。

「豊かな心の育成」学年によってはなかなか自分に自信が持てない、自己肯定感の低い子どもたちがいるということが調査で分かっていることである。かけがえのない大切な存在であると一人一人を認め、称賛し、自分に自信の持てるような子どもたち、さらにはクラスのために役立っている、自分の行動が周りに何かしらの貢献をしているという自己有用感を高めていければと思っている。

「健やかな体の育成」業間等を使って体力づくりを始めているところ。体を鍛えようと心も元気になるという効果もあるので継続的に取り組んでいきたい。

「家庭地域との連携」各種たよりについては学校評価にはなかったが、おたよりをなかなか読んでいただけない結果も出ているので、工夫して学校の情報を効果的に発信していきたい。また、1地域の教材や地域人材等を活用した学習の実践について、生活科、家庭科等における活用、図書ボランティア等を含めて、なかなかコロナ禍で進まない状況もあるが、どのように工夫すれば行えるか検討していきたい。「4地域への貢献」について、子どもたちが地域に何を貢献することができるか、教職員と子どもたちと話し合っ、子どもたちが自ら発信できるような取り組みができたと思っている。

岩崎委員： 生井校長先生自身が重点的に思っていることがあれば教えていただきたい。

生井校長： 剣道の守破離という考え方がある。「守」は今まである計画をしっかりと実践しながら課題を探る、「破」の部分でより良いものを取り入れていく、「離」新しい形となって生み出されていく、そういう形ができればと考えている。今年は南小の実践を見て、自分なりに構想を練っていききたいと思っている。

AIの発達、情報化、グローバル化、戦争も起きている。予測が困難な時代と言われ、その中に育っている子どもたちに、夢、希望を語り合いながらポジティブに生きられるような、より良い時代より良い未来を自分たちで作っていくという未来志向を持って育ってほしい。ただ、失敗や壁にぶち当たることもある。レジリエンス（回復力、立ち直る力）が必要。落ち込んで次の挑戦を諦めることのないよう、立ち直る力を求めたい。生き抜く力を目指していきたい。

手塚委員： 地域との連携について、先程の北小でも「学校に入っただいて」「学校に来てくれて」という学校目線の言葉があったが、自治会連合会の立場としては、連携というところで学校にももっと地域に出っただきたいと思う。昨年度3月の学校運営協議会の際に、学校は地域でどんなことをやっているのか知らないという話があったので、連合会で各自治会の神社のお祭りなどの年間行事の一覧をまとめた。夏休みなどに地域と一緒に地帯のイベントに参加していただくなど、ぜひ活用してほしい。

また、具体的に地域連携とは何かということで、校長先生になる試験の問題集でどんな書き方をしているかということをして過去3年間分勉強した。2020年は課題としてとらえられていないが、今年の問題集には記載がある。法律体系、規則体系としては書いてあるが具体的に学校が何をするのかというところまでは書いていないので、学校や委員さんと一緒に考えていきたい。

生井校長： 大変貴重な資料かと思う。本日のお土産として持ち帰って活用を検討したい。学校

としてもありがたい取組。

水沼委員： 6月に植栽事業ということでプランターの花植え、コキアについて各育成会の会長宛てに案内を出した。子どもたちに来ていただければ楽しい時間になると思う。

オ【全体を通して】

①LRTについて

水沼委員： 来年3月にLRTが開通する。初めて芳賀町に電車が通る。全国的に見ても路面電車は注目されている。学校で遠足や社会科見学での利用ができるが、中学生になると子どもたちだけで行くこともあると思う。その時にお金やいじめなどの問題もあって行けない生徒と行ける生徒に差が出てしまうことも。各学校の児童生徒たちが行きたいとなったときに校長先生はどのように対応するのか。開通までもう一年を切っているので、学校でも考えてほしいと思って意見させていただいた。

②運営委員について

稲川会長： いままで事務局に議題を準備していただいて、打合せをして運営協議会に臨んできていたが、昨年度の最後の第5回の時に細かい打合せもできていなかったということがあった。今年度は運営をしていくにあたって、委員さんの意見を聞きながら会議のテーマなどを決定して取り上げたい。閉じられた会にたくないという思いがあり、委員さんの中から4、5名ご協力いただいて、運営委員という形で次回の会議でどんなことを協議したらいいかを議論する場を作りたい。もちろん学校から提案いただいてもいい。運営委員というものを今年度置いて進めていけたらいいなと考えているが、よろしいだろうか。

うなずいていただいている方が多数見受けられる。ありがたい。立候補者がいればぜひ伺いたい。会長の私と副会長の岡田さんには入っていただいて、他に何名かご協力いただけるとありがたいと思っている。

(手塚委員、岩村委員に立候補いただく)

手塚委員： 私も個人的にそう思っていた。分科会というので学校単位で集まった回があったが、テーマ別に委員さんに集まっていたいただいて議論できればもっと深まると思っている。例えば自治会長であれば地域との連携についてであったりとか、先生方もなかなか自治会長を知ることがないだろうから。伺ったところによると、昨年度の校長先生は東小以外は町外に住まれている方という話があった。そんな中で地域との連携について、地域の神社の行事などを知らない先生方の中で自治会長たちがどんな形でフォローアップできるかと一年間参加させていただいて考えていた。テーマ別に議論を深めることもぜひ考えていただけたらと。

稲川会長： 貴重なご意見、ありがたい。運営委員の中でもぜひ膨らませてみたい。

では、手塚自治会長、岩村委員、岡田副会長と私の4名を基本として、その時によってそれぞれ個別にお声がけさせていただく。その際にはご都合が合えばぜひご参加をいただければと思う。今年一年、運営の御協力をどうぞよろしくお願いいたします。

③芳賀東小学校 郷土芸能クラブについて

稲川会長： 以前、芳賀中学校の柔道部の子どもたちがお囃子をやって地域のお祭りに参加したという話があった。去年のグルミネーションでも久しぶりに子どもたちにお囃子で参加して大変盛り上がった。東小がクラブ活動として取り組みが始まっているという説

明があった。3月の生涯学習講演会で元宇都宮大学の廣瀬先生に講演をしていただき、太々神楽やお囃子をやっている地域の方から後継者の問題などの話を聞いて、そういった方への一つの解決策として非常にいい取り組みだなと感じた。ぜひ今度の活動などについて具体的に、高久先生の方から追加でご説明いただきたい。

高久先生： 郷土芸能クラブを担当しており、明日からクラブ活動が始まる。「ふるさとをおもう子」ということで、地域連携については皆さま方に大変お世話になっていて、町の目指す方向性にも地域の教育力で未来を創ると言われている。お祭りは、町民の心の拠り所であり、特に芳賀町の方というのはお祭りには強い思いを持っている。私も芳賀中に来る前から活動をしていて、お祭りには強い思いを感じていた。東小に来て校長の方からもぜひクラブ活動をとということでお話があった。芳賀中の時からお借りしている太鼓を使わせていただいてクラブ活動を始めた。

地域の方に見に来ていただいたり教えていただいたりしたい。お祭りに限らず子どもたちが地域の行事に盛り上げ役として参加して元気を与える、貢献するということを目指す。我々も教えていただいたり、元気をもらったり地域の方から励ましをいただくので、お互いに Win-Win の関係ができるのかなと思っている。子どもたちと郷土芸能を続けられるように営業活動を頑張るので、イベントや行事等にお誘いいただきたい。お囃子をはじめとした郷土芸能は教育的価値が高いと思う。東小の学区には太々神楽もあるし、延生地蔵の盆踊りがある。オール芳賀東ということで最終的には芳賀町のため。5年後10年後に大きくなった子どもたちが芳賀町を引っ張っていく存在になると思うので気合を入れて頑張っていきたい。

稲川会長： 次回以降報告などを受けながら、さらに議論を深めていきたいと改めて思っている。

5 事務局からの事務連絡

(1) 今年度の活動計画について

コロナ前の活動に戻す予定。6月に分科会を行い、放課後の時間帯などで委員の皆様と校長先生方がお話する機会を設けていただきたい。県の警戒レベルが1に下がったら、さらに親睦を深められるような会を計画したいと考えているので、是非ご参加いただきたい。

(2) 学校運営協議会規則について

資料の3、4ページに規則をわかりやすくしたものを載せた。運営マニュアルのようなものを現在作成中であり、次回の会議に配布できるよう準備する。

6 その他

手塚委員： 東小の学校だよりを読んで感動したが、会議の際にまとめて送るのではなくて、毎月の動きがわかるように、委員にも送付してほしい。実際に学校に行ってみられることと、学校だよりから知れることがあるので、学校運営協議会がみんなで前向きに活動していくために、委員の皆さんにも毎月送付を要望したい。

高津課長： 学校からデータをいただき、委員の皆様へ送付できるようにする。

6 閉会